

## 第15回 雪のラブレター募集(入賞作品)

### 【恋文の部】

賞	最優秀賞
作品	雪積もり 自転車乗れない 登下校 いつもの倍の ふたりの時間
作者	馬場 麻里
住所	東京都
講評	これは老若男女どの世代の人が読んでも、共感できるラブレター。少ない文字数ながら、初恋の情景が鮮やかに浮かびます。かくいう私も、十代の頃を思い出して思わずキュンとしてしまいました。

賞	優秀賞
作品	マスカラで伸ばした睫毛につもる雪 吐息でとける 涙みたい もう少し もう少しだけここにしよう
作者	lily
住所	福岡県
講評	ただの睫毛ではなく、「マスカラ」としたことで、イメージが圧倒的に豊かになりました。白い世界に、黒い涙で一粒、色がついた感じです。滲んだメイクで恋人を待ち続けるこの子が、なんともいじらしくて切なくなりました。
作品	「関東で大雪」のニュース。君は大丈夫かなと、メールする。去年一緒につくった雪だるま、「ほかの人と作ったらいやだよ」 心の中でつぶやきながら。
作者	花 ときえ
住所	群馬県
講評	可愛いなあ。脚本家として言わせてもらえば、「(雪だるまを)ほかの人と作ったらいや」というのは、何気ないけどなかなか書けない、良いセリフ。気負いのない自然な表現がとても微笑ましいです。

賞	佳作
作品	雪の駅、貴女は寒さにたえつつ、足踏みをして、僕を待っていた。手には洋傘と僕の長靴を持って。靴の中には、暖かいカイロが入っていた。
作者	角貝 久雄
住所	埼玉県
講評	“駅で待っていてくれる人”を描いた作品は、実は多く寄せられています。でも、この作品の「靴の中にカイロ」というだめ押しにはやられました。こんなに優しい奥さんを、どうか大切にしてください。
作品	この街もこのぼくからも卒業と言うきみの背に舞う雪の切なく
作者	困っち
住所	愛知県
講評	これは確かに切ないですね。でも、彼に別れを告げた彼女の方は前を向き、その背筋もきつと、ピンと伸びていることでしょう。ふられた悲しみに、彼女の成長を見守るあたたかい視点が混じているところが、この作品の良さだと思います。
作品	この雪の向こう側にわたしのことを大好きな人がいると思うとちつとも寒くない足どりも軽くなるんだ根雪まで蹴散らしてぐんぐんと進むのだ
作者	mich
住所	大阪府
講評	言葉のリズムがそのまま歩きのリズムになっています。余白や句読点が一切ないのも、一瞬も休むことなく歩き続けることを表していて、細部までよく考えられていて、見事です。

審査員：岡崎由紀子氏(脚本家、山形市出身)  
 日本脚本家連盟、日本放送作家協会所属。「アイ・ラブ・ユー」(映画)「警視庁捜査一課9係」「出入禁止(デキン)の女～事件記者 クロガネ～」「TEAM～警視庁特別犯罪捜査本部」「女刑事みずき」「捜査線上のエリア」「白と黒」「水戸黄門」「かりゆし先生ちばる!」などを担当している。

応募作品数：917作品